

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 754 号 令和 6 年 3 月

目次

○第 2 回支部長会議開催報告（常務理事）	1
○「馬飼養管理技術地方講習会」「牛伝染性リンパ腫対策講習会」開催報告（山口支部 大村康一郎先生）	2
○山口県動物由来感染症検討会議開催報告（県庁支部 岡田明子先生）	3
○リレー随筆「久しぶりに出会った痛み」（美祢支部 齋藤陽之先生）	4
○世界でも珍しい鉄道が徳島県で（山口支部 鹿島貴朗先生）	4
○いわゆる「ひきこもり」が改善した一例の紹介（山口支部 田中尚秋先生）	5
○EU向け輸出牛肉に係る動物用医薬品規制の変更及びその対応—ホスホマイシンの使用規制—（山口県農林水産部畜産振興課）	6
○令和 6 年能登半島地震動物救護活動支援金について	7
○会員異動報告について	7
○事務局だより	7
○愛玩動物看護師生涯教育講座案内	8
○能登半島地震復興を応援する獣医師の会案内	9
○狂犬病予防注射啓発ポスター	10

令和 5 年度第 2 回支部長会議開催報告

常務理事 酒 井 理

令和 6 年 2 月 15 日（木）午後 1 時 30 分から獣医師会館会議室において、令和 5 年度第 2 回支部長会議が開催されました。

田中尚秋会長から平素からの会務運営の協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の 6 件の議題について協議していただきました。

議題 1 令和 5 年度事業実施状況について

議題 2 山口県獣医師会館の取得について

議題 3 地方獣医師会会員組織率の向上対策について

議題 4 狂犬病予防注射指定獣医師の新規指定及び解除について

議題 5 職域部会及び委員会委員の推薦について

議題 6 表彰者の推薦について

議題 1 では、年度後半の事業実施状況について報告しました。主な説明内容は次のとおり。

- ・本年 1 月末の会員数は、令和 4 年度末の 377 名から 1 名増えて、378 名となっている
- ・昨年 9 月に山口大学支部の豊福肇先生、11 月に山口支部の福島和彦先生が逝去された
- ・学会参画等では、昨年 12 月 1 日～3 日の間に、神戸市で、日本獣医師会獣医学術学会年次大会が開催され、本会関係者から 4 演題の発表があり、小川祐生先生（アミカペットクリニック 宇部厚狭支部）が小動物部門の獣医学術奨励賞を受賞された
- ・本会主催の講習会は、11 月に獣医公衆衛生講習会、

1 月に第 1 回小動物講習会を開催し、2 月 25 日に第 2 回小動物講習会を予定している

- ・ワンヘルスの推進を県に要請し、新たな「山口県感染症予防計画（素案）」に、ワンヘルス・アプローチが位置づけられた
- ・S F T S の検査結果の集積では、11 月に山陽小野田市、1 月に山口市で陽性事例があり、今年度、7 件の猫の陽性事例の臨床症状を HP に掲載した
- ・昨年 9 月末の狂犬病予防注射実施頭数は、45,741 頭で、令和 4 年度末に比べ、3,368 頭減少している
- ・学校飼育動物保健衛生指導では、日本獣医師会が一括作成した「がっこう動物 第 12 号」を動物病院、図書館、小学校等に配付した
- ・獣医事に係る要望・要請では、10 月に開催された自由民主党山口県支部連合会主催の政策聴問会に「ワンヘルスの推進」についての要望を提出した
- ・県獣医師会館新規取得検討については、6 月～12 月の間に、4 回検討会議を開催した
- ・2 年毎に実施している時重初熊先生の墓碑掃苔供養を、昨年 10 月、徳山支部の先生方を中心に実施された

議題 2 及び **議題 3** については、1 月に開催された総務委員会・第 4 回理事会での説明内容と同様（令和 6 年 2 月号会報掲載済み）です。省略します。

新会館取得に関して、出席者から「現会館の建設時に補助金を交付された県や山口市（当時は小郡

町) に対し、建て替えることを文書で報告すべき」との意見がありました。

議題4では、昨年12月に開催された第2回小動物部会委員会において、3名の先生が新たに指定獣医師に承認されたことを報告しました。

また、5名の先生の指定解除の届出があったことを紹介しました。永年にわたり集合注射にご尽力いただいた先生方に心より感謝申し上げます。

○新規指定(3名)

熊谷亮之先生(宇部厚狭支部)

大田泰三先生(長北支部)

植村留美先生(豊浦支部)

○指定解除(5名)

弘津和之先生(熊毛支部)

松田美和子先生(山口支部)

杉山容子先生(宇部厚狭支部)

福田礼子先生(長北支部)

村上雅之先生(下関支部)

議題5では、令和6年5月末まで任期となっている本会の職域部会及び委員会委員について、各支部からの推薦について依頼しました。

議題6では、令和6年度の表彰(日本獣医師会長、中国地区獣医師会連合会長、山口県獣医師会長)候補者の推薦について依頼しました。

最後に、今後の主な行事予定(案)等を説明し、6月9日の定時総会への出席を要請しました。

また、美祢支部の吉村正道支部長から、本年度をもって美祢支部を解散すること、長年にわたるご厚誼に感謝する旨の挨拶があり、白永伸行副会長の挨拶で閉会となりました。

「馬飼養衛生管理技術地方講習会」「牛伝染性リンパ腫対策講習会」開催報告

山口支部 大村 康一郎

(公益社団法人山口県畜産振興協会)

2月6日と13日、山口グランドホテルにおいて、獣医師、飼養者及び指導者等を対象に2つの講習会を開催しました。

「馬飼養衛生管理技術地方講習会」は、公益社団法人中央畜産会の協力を得て毎年開催しているもので、今年は、日本中央競馬会栗東トレーニング・センター競走馬診療所の井畔貴之(いぐろたかゆき)氏を講師にお呼びして「飼養環境に起因する馬の疾病とその予防対策」というテーマで講演をしていただきました。井畔先生は、北海道大学獣医学部で学ばれ、在学中に馬術部に所属され、馬に魅せられたそうで、好きこそものの上手なれを体現された経歴をお持ちでした。日々、診療で多くの馬に接することから、それぞれの病気について、スライドに記されない情報もポンポン出てくる講習会でした。診療獣医師や行政関係の獣医師のみならず、馬飼養者にも多く聴講していただき、講演の後、積極的に質問もされていました。また、今後も、講習会を希望するとの声もあり、馬の飼養管理に関する情報を積極的に求められているのだと認識を新たにしました。

「牛伝染性リンパ腫対策講習会(以下、EBL講習

会)」は農林水産省の家畜衛生対策事業のメニューのひとつで、牛伝染性リンパ腫対策に関する知識の向上を目指して毎年開催されるもので、毎年、全国で牛伝染性リンパ腫の対策について研究されている方々を招聘して講演をしています。今年は、東京大学大学院地球規模感染症制御学講座の間陽子特任教授をお呼びして「牛伝染性リンパ腫の抵抗性牛と感受性牛を利用した新しい清浄化対策」というテーマで講演をしていただきました。間先生は、長時間とめどなく講義をされ、そのパワーのすごさに驚きつつも、参加者も、清浄化対策の可能性を感じ取れたのではと思います。間先生は、東京大学の前には理化学研究所に所属され、関東各県の家畜保健衛生所とも連携して牛伝染性リンパ腫のフィールドデータも収集されており、そこから得られた知見についても講義で話されていました。さらに、次の日、中部家畜保健衛生所の病性鑑定室を訪問され、施設環境の良さに驚かされていました。

畜産振興協会では、来年度も同様な講習会を開催したいと考えています。獣医師の先生方の、積極的なご参加をお願いします。



「馬飼養衛生管理技術地方講習会」講師の井畔先生



講習会の翌日、中部家保で病性鑑定室員等と協議される「牛伝染性リンパ腫対策講習会」講師の間先生

動物由来感染症予防体制整備事業について

県庁支部 岡田 朋子

(山口県環境生活部生活衛生課)

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」で規定されるものをはじめとする感染症の多くは、動物由来感染症であり、ペット動物等、私たちの身近な動物の病原体保有状況を把握することは、予防対策を講じる上で大変重要となります。

このため、県では、平成12年度から、本県のペット動物等の病原体や抗体等の保有状況の調査や感染症予防等に関する普及啓発等を行う「動物由来感染症予防体制整備事業」を実施しています。

本事業では、医学、獣医学等の専門家や関係行政機関の職員で構成する検討会を設置し、この検討会において、感染症の発生動向等を踏まえ、調査対象とする感染症、動物種、調査地点や時期等に関する事業計画を毎年度策定しています。

この事業計画に基づき、動物病院、ペットショップ等の関係機関の協力のもと採取した検体（血液、糞便等）の検査を行い、飼養状況等とあわせた調査結果について、検討会で分析・評価を加え、報告書として取りまとめ、県獣医師会をはじめ、県医師会、市町、動物取扱業者、学校等に提供しています。

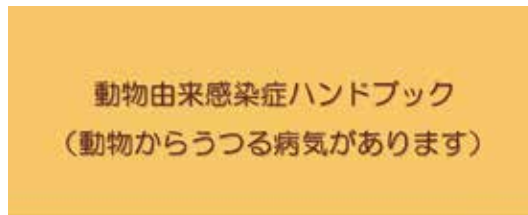
さらに、県民の皆様にも、動物由来感染症について理解していただき、動物の衛生管理の徹底や動物との適切な接し方の参考としていただけるよう、調査結果や感染症の予防方法などをわかりやすくとりまとめた「動物由来感染症ハンドブック」を作成しています。

なお、報告書及びハンドブックは山口県HP上でも公開していますので、御活用ください。

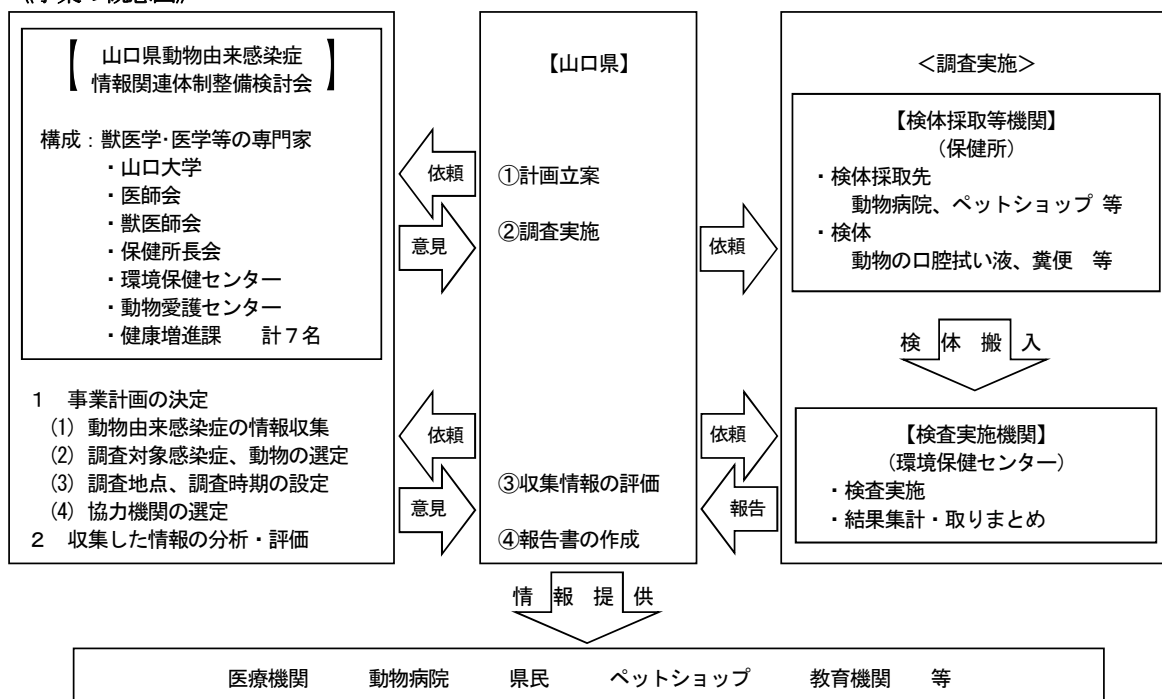
(<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/39/20271.html>)

《令和5年度に実施した病原体保有状況調査》

- ・県内動物病院に来院したイヌにおける重症熱性血小板減少症候群（SFTS）の抗体
- ・山口県動物愛護センターに搬入された猫におけるSFTSウイルスの遺伝子
- ・ペットショップで販売される鳥類のオウム病クラミジア遺伝子



《事業の概念図》



リレー随筆

久しぶりに出会った痛み

皆様、いかがお過ごしでしょうか。

今年になり、2か月が過ぎ、年を重ねるごとに時間の経過が早くなるものだと感じてます。

令和元年に結婚し、令和3年8月に第一子（長女）が生まれ、家族3人での生活でしたが、令和5年9月に第二子（次女）が生まれ、家族4人での新生活がスタートしました。

令和5年は第二子も生まれ、個人的には大きなトラブルもなくいい年を過ごせたと思っていた年末、久しぶりの激痛が右足にやってきました。持病の痛風です。

第一子が産まれてからは自宅で酒を飲むのをやめ、痛風との出会いをなるべく避けるように気をつけた生活を心がけておりました。

また、第一子が産まれて以降は新型コロナウイルス感染症の大流行もあり、飲み会も開催されていなかったため、酒をのむ機会はほとんどなく、禁酒したおかげで、体重も減り痛風発作に見舞われることが数年ありませんでした。

しかし、新型コロナウイルス感染症も落ち着き、昨年末はコロナ以前のペースで飲み会が開催されるようになり、自宅では酒を飲まない生活は継続しているものの、酒をのむ機会は増えていきました。

12月下旬に右足に違和感を覚え、「あやしいな」と感じていたら、やはりあの激痛がやってきました。

年末は激痛のなか仕事をやり、少し痛みが和らぎ、

美祢支部 齋藤陽之
(農林総合技術センター畜産技術部)

年末年始の休みに入りました。

ここで、痛みが少し緩和してきたことをいいことに、もう大丈夫だと自己判断し、毎日のように開催された忘年会・新年会に参加した結果、年始はこれまで感じたことがない激痛に襲われ、以前は1週間くらいでひいていた痛みが1か月続き年明けから最悪の1か月となりました。

年始は何日か仕事の休みをもらい、職場の人には迷惑をかけ申し訳なかったです。

仕事に出れるようになってからは農家の方や関係者の方からお見舞いの優しい声をいただきありがたい気持ちもありながら、ただただ恥ずかしかったです。

今後は、医療の力を使ってこの痛みに出会うことがないようにしていこうと思います。

皆さんもお体には気をつけて健康な日々をお過ごしください。

写真は痛みが緩和したぐらいに家族で十種ヶ峰スキー場にソリをしに行った時のものです。

次回のリレー随筆は職場の後輩である小森大幹先生にバトンタッチします。



世界でも珍しい鉄道が徳島県で

山口支部 鹿島貴朗

(山口農林水産事務所畜産部)

今回は、徳島県阿波海南“駅”と高知県甲南“駅”を結ぶ阿佐海岸鉄道阿佐東線を紹介しようと思います。

徳島駅からJR牟岐線で1時間以上かかる地域を走行し、営業距離が短く駅数も少ないこの路線の最大の売りは、DMV (Dual Mode Vehicle) です。阿佐海岸鉄道はこのDMVを世界で先駆けて通常営業運行を開始し、他はカナダのKaoham Shuttleのみだそうです (Wikiより)。

DMVは、道路と軌道を両方走行できる新交通システムで、道路上はゴムタイヤで走行し、軌道上は車体下に格納している車輪を出して走行します。軌道上での乗り心地は想像以上に良く、個人的にはレールの繋ぎ目を走行するときの“あの音”が良く聞こえる印象です。

この鉄道モードとバスモードのモードチェンジは阿波海南駅と甲南駅でそれぞれ行われます。阿波海南駅には撮影スポットが整備されていますので、その様子を間近で見ることができます。車内ではモードチェンジに合わせてムービーが流れ、振動のみで

体感しにくい乗客も、モードチェンジをイメージしやすい工夫がなされています。

DMVへの乗車はネットによる予約制が基本

ですが、席の指定はできません (予約完了時に自動的に決定されます)。一応予約なしで乗車することも可能ですが、満席時は断られるため、あらかじめ予約しておくことをお勧めします。

土日には室戸岬まで運行していますので、岬周辺を訪れる際は利用してみたいはいかがでしょうか。



真新しいボンネットバスにしか見えない (道の駅穴喰温泉にて)

いわゆる「ひきこもり」が改善した一例の紹介

山口支部 田中尚秋

今から二十数年前の古い話で恐縮であるが、現在も近親者のひきこもり事案等で苦慮していらっしゃる方もあるかと思ひ、参考になれば幸いであるので、脱することができた一例として紹介してみたい。

当時、ひきこもりになった大学生（愚息）がいて、自分としても初めての経験であり、どうしたら良いか全くわからず、暗中模索の日々が続いた。

大学生活を満喫しているものとばかり思っていたある日、大学の出張移動相談があり、ポチポチ就職活動の時期になったということで相談に伺い、そこで聞いたのが、「就職どころか、出席日数が足りず進級できない」という衝撃的な言葉であった。本人に確認すると、今まで言えずに嘘をついていたのに耐えられなくなったのか、学校に行きたくなく、ひきこもっていることを告白した。泣く泣く腹から絞り出すような声で告げる彼に、本人が一番つらかったのであろう、と敢えて責めることはしなかった。

そこからお互いの、家族の苦しい生活が始まった。とりあえず下宿を引き払い、自宅に連れて帰って様子を見ることにした。自宅でも外に出たがらず、人に会うことを嫌がって、相変わらず昼夜が逆転した生活を送っていた。精神関係の専門家に相談し、またクリニックにも通わせたが、「本人に任せ、親は口出ししてはならない」というアドバイスを受けていたので、その指導に従った。しかし約半年間様子を見ていたが、全然回復しなかった。

一方で、自分としては、インターネットやテレビ等で体験者の話等を注視しながら見ていたところ、大きなヒントに出会えた。一つは、ネットで、「人に会うことを嫌がって外に出たがらなかった友人が、イラストが上手な子だったので、書かせて無理やり引っぱり出していたところ、そのイラストが売れ始め、否が応でも人に会う機会が増え、そのうち普通の生活ができるようになった」という書き込み、二つ目は、テレビ放映で、「東大を目指していた優秀な女子高生が、ある日突然登校できなくなった（いわゆる登校拒否）、ということで熊本大学病院に入院し、担当医の先生が、夜遅くまで勉強し昼夜逆転していることに着目され、そこに原因があるのではないかとということで、セロトニンが関係しているのではないかと」という仮説を披露された。

今でこそ、精神バランスへの影響が大きい物質として「セロトニン」という言葉を見聞きするようになったが、当時はまだほとんど知られていなかった。

この二つのことが大きなヒントになり、まずは昼夜逆転の生活を改めさせなければ始まらないと思ひ、その手段を考え始めた。

幸い、当時、犬の問題行動矯正の病院を始めていたので、動物（犬）に活躍してもらうことにした。「自発的に起きるように仕向けるのに犬の面倒を見させる → 起きたくない時でも犬に食事を与えないといけない、あるいは散歩に連れて行かなくてはならない → 否が応でも自ら起きるのであろう」、さらに「犬のしつけの仕方を教えることにより、自分がしつけをした犬が自分の命令で動いてくれる → それが喜びとなり、ますます興味が深くなるであろう」

この思惑が奏功して、次第に昼夜逆転の生活がなく

なり、夜早く寝て朝早く起きるといった普通通りの生活ができるようになった。すると、そのお陰か、勉強に意欲が出始め図書館に通うようになった。文系の学部に進んでいたのであるが、どうもコンピューター関係に興味を持っていたようで、電子工学に係る専門的な知識を独学で得たようである。その後、周りのサポートのお陰等もあり、その知識を活かし現在は情報通信関係の仕事をしている。彼を支えてくれた多くの方、特に彼の友人、私の兄等に感謝の気持ちでいっぱい、将来の見通しが立たず悲嘆に暮れていたことが、今では嘘のようである。

この事例を経験したことで、このようなことが成功事例に結びつくのか検証しようと思ひ事例を集積しようとしたが、協力者が現れず（すべて断られた）、「親としては世間に知られたくない」心情もよく理解できるので、それ以上は求めなかった。今回、急遽、会報原稿を求められたので、他に適当なネタもなく、一例ではあるが、恥ずかしながら公表させていただいた次第である。

私は犬に活躍してもらったが、他の動物、あるいは他の、本人が興味を持っていること、等でもキッカケとしては十分であり、本人が自覚していることを周りがいくら説教しても却って反発を招くだけで、要は自発的に行動するようにサポートすることが肝要だと思っている。

学校、あるいは職場等で、行くたびにいじめられる、あるいは自分の能力以上のことを求められる、ついていけない、あるいは、楽しいことが全くない・・・、そういう状況が続いた場合、誰でも不登校、出勤拒否、あるいは引きこもり等になるのではなからうか？ ← 逆に、学校、あるいは職場（仕事）が楽しくてしょうがない、行くのが楽しみ、— そういう状況であれば（昼夜逆転の生活でない限り）引きこもりなど起こり得ないであろう。

近年、精神的な疾患に関する対処方法等がネット等でもあふれている。ずいぶんグレードアップされており、むかしの苦勞、今いづこという感じである。引きこもりに関係しているのは、ホルモンの「セロトニン」だけではないだろうが、不足すると問題が生じることは間違いないようである。

私たち現代人は、ストレス、劣等感、高齢化等で、知らず知らずのうちにセロトニン不足に陥り、気が滅入って落ち込んでしまったり、心のバランスが崩れて、何かに深く依存してしまったり、イライラしてキレやすくなってしまったりするそうで、誰にでも起こり得る現象だそうである。

近年、すぐ切れる老人のニュース等がマスコミを賑わせているが、セロトニン不足のせいかな？

逆に、セロトニンを増やす方法は、早寝早起き、リズム運動、よく噛む、腸内環境を整える、太陽光をよく浴びる、等だそうである。

これらのことに留意し、いつまでも、「切れない」老人でいたいと思っている・・・が、高齢化はどう防ぎようもなく、妻に言わせると、彼女に対して私も良く「切れている」そうである・・・（これは別の原因か？）

E U 向け輸出牛肉に係る動物用医薬品規則の変更及びその対応 —ホスホマイシンの使用規制—

山口県農林水産部畜産振興課

E U 向けに輸出される牛肉については、薬剤耐性菌対策の一環として新たな E U 規制が制定されることになりました。将来的（※2026年7月目途（未定））に、E U に対して、出生からと畜までの間、① E U の人医療に使用が限定される抗菌剤リストに掲載されている抗菌剤が使用されておらず、②成長促進目的での抗菌剤の投与を行っていないことを証明した牛肉のみが輸出を認められることとなります。

子牛の肺炎や下痢症の治療に用いられる抗菌剤「ホスホマイシン」が本規制の対象となることから、出生からと畜されるまでの間に本抗菌剤が使用された牛は、E U 向けに輸出ができなくなります。このため、繁殖農家や酪農家は、①家畜市場から「ホスホマイシン」を使用していないことの確認（生産履歴証明等）や、②相対取引や家畜市場で販売した牛については、肥育農家や子牛出荷先農家からホスホマイシンを使用していない旨の申告書を求められる場合があります。

つきましては、「ホスホマイシン」を使用、もしくは処方する場合、農家にその旨申告するとともに、子牛市場出荷時や確認を求められた場合はその旨申告するよう指示をお願いします。また、農家から使用の有無について照会があった場合は対応をお願いします。

なお、農家には以下のパンフレット（会報用に国が作成したパンフレットを一部編集）を用いて周知を行いますので併せてお知らせします。

○ホスホマイシン使用に係る申告書

ホスホマイシンの使用に係る申告書

下記に示す当農場が出荷した牛は、出生（転入している場合は転入日）から転出までの期間、ホスホマイシンを使用していないことを申告します。

記

1. 個体識別番号： _____
2. 生年月日： _____ 年 _____ 月 _____ 日
3. 転入有無： _____ 無し _____ 有り
 _____（転入日： _____ 年 _____ 月 _____ 日）
- ※該当する方に○（転入「有り」の場合は転入日を記入）
4. 転出日： _____ 年 _____ 月 _____ 日

○農家広報用パンフレット

繁殖農家・酪農家のみなさまへのお願い

EUにおける規制の変更に伴い、出生からと畜されるまでの間、『ホスホマイシン』という抗菌剤が投与された牛は、EU向けに輸出ができなくなります。このため家畜市場や肥育農家から

- ①『ホスホマイシン』を使用していないことの確認
- ②申告書の提出

を求められる場合がありますので、ご協力をお願いいたします。

ホスホマイシン不使用申告の対応の流れ

対応1 家畜市場から求められるケース

家畜市場に子牛を出荷する際、家畜市場からの求めがあった場合、『ホスホマイシン』が使用された履歴がないことを確認の上、申告書を提出。

出荷時に子牛出荷する際にホスホマイシンの使用がないことを確認の上、申告書を提出してください。

対応2 肥育農家・子牛出荷先農家(育成農家等)から求められるケース

相対取引や家畜市場における牛の販売後、肥育農家・子牛出荷先農家からの求めがあった場合、『ホスホマイシン』が使用された履歴がないことを確認の上、申告書を提出。

あなたの農家から購入したこの牛について、ホスホマイシンの使用がないことを確認の上、申告書を提出してもらえますか。

ホスホマイシンとは？

主に子牛の下痢症や肺炎の治療に用いられる抗菌剤であり、使用に当たっては獣医師の処方箋又は指示が必要です。なお、本期については代替薬が存在します。

①獣医師への使用履歴の確認、②自農場に保管している処方箋・指示書等の確認により、ホスホマイシンが使用されていないことを確認の上、申告書の提出のご協力をお願いします。

（問い合わせ先）
 山口県畜産振興課
 TEL:083-933-3434
 農林水産省畜産局肉用肉用食肉肉用食肉用
 TEL:03-6744-2130

お知らせ

令和6年能登半島地震動物救護活動等支援金について

日本獣医師会が募集している「令和6年能登半島地震動物救護活動等支援金」について、会員の皆様から令和6年2月16日までに届いた募金を日本獣医師会の支援金口座に入金しましたので報告します。多くの皆様のご協力に感謝します。

なお、支援金の募集は継続されていますので、趣旨に賛同される方は、本会事務局に連絡して下さるようお願いします。

○賛同者：11(人・団体)

○募金金額：202,150円

会員異動報告について

人事異動等で、会員の所属・住所等の変更があった場合は、すみやかに所属支部事務局に「会員異動通知書」を提出してください。手続きが遅れると、「日本獣医師会雑誌」をはじめ、(公社)日本獣医師会や本会からの通知等が届かなくなりますので、よろしくをお願いします。

※様式は本会ホームページ(各種様式)に掲載しています。

今後の主な行事(予定)

- 3月14日 ・第5回理事会(県獣会館)
- 3月18日 ・家畜保健衛生業績発表会(県庁)
- 3月19日 ・中国地区獣医師会連合会監査(県獣会館)
- 3月22日 ・山口大学卒業証書授与式(山大)
- 4月4日 ・中国地区獣医師会連合会総会(米子市)

事務局だより

- 2月2日 ・獣医学教育改革推進連携協議会(山口大学)
- 2月6日 ・馬飼養衛生管理技術講習会(山口グランドホテル)
- 2月9日 ・山口県動物由来感染症検討会議(県庁)
- 2月13日 ・やまぐち働き方改革シンポジウム(山口グランドホテル)
- 2月15日 ・第2回支部長会議(県獣会館)
- 2月15日 ・第8回山口県獣医師会館検討会議(県獣会館)
- 2月17日 ・第4回福岡県ワンヘルス国際フォーラム(福岡市)
- 2月20日 ・会報編集委員会(県獣会館)
- 2月25日 ・第2回小動物講習会(県獣会館)
- 15日・29日 事業推進会議

次回編集委員会 3月26日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第754号 令和6年3月10日(毎月1回発行)

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

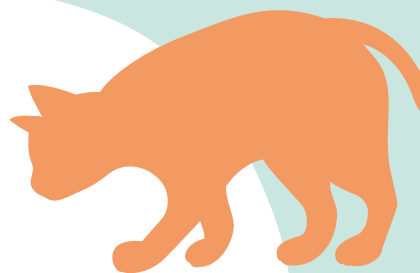
発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷

愛玩動物看護師のみなさんに向けたスキルアップを支援する生涯教育を始めることになりました。

【主催者】一般財団法人 動物看護師統一認定機構

愛玩動物看護師 生涯教育講座



第1回講座 パネルディスカッション

受講料
無料

公開
期
予
定

2024年3月～8月

配
信
方
法

オンデマンド

※詳細は機構ウェブサイト等でご案内いたします。

【受講申し込み方法】

専用申込みページからお申込みください。



テーマ

国家資格「愛玩動物看護師」の誕生による これからのチーム獣医療に向けて

愛玩動物看護師は、愛玩動物看護師法に基づく国家資格を有する獣医療補助者として、愛玩動物や飼育者のみならず社会に対して、大きく貢献することが期待されています。

本講座は、生涯にわたり知識と技能の研鑽を重ね、資質を高め、愛玩動物看護師の役割をより一層社会へ還元していくことを目的としています。

その第1回目として、愛玩動物看護師の誕生によるチーム獣医療について、パネルディスカッションを開催いたします。

内容

- ◎ 「これからのチーム獣医療」説明 **農林水産省**
- ◎ 「チーム獣医療における獣医師と愛玩動物看護師の連携について」
- ◎ 「診療補助業務の実例と問題点の解決策について」
- ◎ 「これからの愛玩動物看護師の活躍について」
- ◎ 「愛玩動物看護師へのメッセージ」 **環境省**



今後の講座の紹介 /
公開予定▶2024年3月～8月

第2回

診療の補助

※第2回以降の講座は有料となります。

第3回

愛護適正飼養

パネリスト



獣医師 佐伯 潤氏

(一財)動物看護師統一認定機構 理事
(公社)日本獣医師会 理事(動物福祉・愛護職域担当)
(公社)大阪府獣医師会 会長



獣医師 市川 陽一朗氏

(一財)動物看護師統一認定機構 理事
(公社)日本獣医師会 監事
(公社)千葉県獣医師会 会長



愛玩動物看護師 横田 淳子氏

(一財)動物看護師統一認定機構 理事
(一社)日本動物看護職協会 会長



愛玩動物看護師 佐々木 涼太氏

(一社)日本動物看護職協会 関東甲信越支部 副支部長
みかん動物病院 愛玩動物看護師

〈お知らせ〉

※本講座は、愛玩動物看護師国家試験及び予備試験の受験対策講座ではありません。
※本講座は、愛玩動物看護師法に基づく指定講習会ではありません。
※受講資格等はありません。どなたでも受講いただけます。

★ 2024年9月以降も愛玩動物看護師の皆様には有益な講座を予定しています



一般財団法人 動物看護師統一認定機構
〒113-0033 東京都文京区本郷5-23-13 タムラビル8階
<https://www.ccrvn.jp/index.html>



お問い合わせ先

公式ホームページの「お問い合わせ」からお尋ねください。
(一財)動物看護師統一認定機構 問合せフォーム
<https://www.ccrvn.jp/contact.html>



能登半島地震 復興を応援する 獣医師の会

世界中で活躍する獣医師が
講師を務めるレクチャーを
オンデマンド配信します。



その収益の全てを被災地
支援のために寄付するチャ
リティーレクチャーです。

- ・約 50 名の講師陣 (HP に掲載) によるレクチャー
- ・1 レクチャー 3,000 円
- ・2024 年 1 月末～ 3 月 31 日 (視聴は 6 月末まで)
- ・収益は配信経費を除いて全額「令和 6 年能登半島地震動物対策本部」に寄付予定
- ・当会 HP より申込みください
- ・メンバー

鷺塚章 (ワシツカ獣医科瑞穂病院)、小島健太郎 (神奈川県・あすなろ動物病院)、賀川由美子 (病理組織検査ノースラボ)、森野俊哉 (株式会社 Zpeer)、三崎将人 (みさき動物病院)、森田肇 (公益財団法人日本小動物医療センター夜間救急診療科)、河又淳 (千葉小動物クリニック)、小林哲也 (公益財団法人日本小動物医療センター附属日本小動物がんセンター)

● 当会についての詳細・申込みは HP をご覧ください！
<https://vetsfornote.my.canva.site>

● お問い合わせ

〒243-0112 神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷 148 あすなろ動物病院内
能登半島地震復興を応援する獣医師の会事務局
小島健太郎 vetsfornoto@gmail.com



狂犬病予防注射は お済みですか



狂犬病は、犬だけでなく、人にもうつる病気です。
発症した場合、ほぼ100パーセント死に至ります。

狂犬病の予防注射は毎年1回
犬の登録は生涯1回

狂犬病予防注射済
2024年度
山口県市町

犬鑑札
山口県市町

※首輪に装着
しましょう